

2
0
2
0 年度春公演候補作

愛しのアニー

石田 克騎

上演データ▽

スタイルは具象。

舞台は結婚式場のオフィスルーム。

上演時間：4 5分〜5 5分ほど。

【役者】

山中聡：男性。式場の副責任者。台詞数 1 7 2。

橋本博暁：男性。式場の総責任者。台詞数 1 0 6。

田中七実：女性。今回の結婚式の担当。台詞数 1 7 6。

横山玲衣：女性。2年目の社員。台詞数 2 2 7。

松原杏菜：女性。今回の式の花嫁。台詞数 4 3。

稲田誠：男性。松原杏菜のマネージャー。台詞数 3 1。

音楽が流れている。

スポットが明転すると、高橋（玲衣）が舞台中央に立っている。

玲衣

どうも。みなさんはじめまして。私の名前は高橋玲衣。彼氏募集中の21歳、いわゆる〇〇です。普段は寂れた…じゃなかった、味のある結婚式場で雑務をしています。いつかは、自分の力で式をプロデュース…そして、雑誌取材、テレビ出演、映画主演…ああ人生は夢だらけ…あ、そうだ。ちょっとだけ秘密の話しますね…私、この職場やめようと思ってるんですよ。まあ原因は何個あるんですけど、一番は、案外この仕事に刺激がなかったこと…。ブライダルなんて毎日楽しいと思ってたのになー。案外、毎日が一緒なんだよな…まあ、そんなことどーでもいいか。私たちの大騒動〇〇分間、お楽しみください、はい、拍手ー。

一旦照明が消えた後、完全明転。

とある町の結婚式場オフィスルーム。机とパソコンとロッカー。

山中とイヤホンでテープを聞いている橋本が座っている。

そこに玲衣が入ってくる。

山中

ふふふーん。

玲衣

どうしたんですか、そんな鼻歌なんか歌って。

山中

いやあそりゃ鼻歌も出るよ。

玲衣

え、なんですかなんですか…

山中

えー…当ててみて。

玲衣

えークイズですか…気持ち悪い。

山中

気持ち悪いってなんだよ。

玲衣

宝くじが当たったとか…

山中

んー…違う。

玲衣

財布を拾った。

山中

…違う。

玲衣

自販機に取り忘れのお釣りがあった…

山中

俺、そんながめつく見える…

玲衣

あ、いや別に…

山中

俺、42にもなって自販機のお釣り攫わないよ…

玲衣

あー厄年ですもんね。

山中

関係ねえよ。…違うよ。杏菜さんだよ。杏菜さん。

玲衣

杏菜さん…ああ、松原アンさんの話ですか…

山中 そうそう。…俺、芸能人の結婚式なんて初めてだもん。
玲衣 あーまあウチの式場の規模ですもんねー。
山中 で、俺実は、昔ファンだったのよ。杏菜さんの。
玲衣 へー。
山中 いやあもうこれ何度でも言うけど、よくうちなんか選んだよね、杏菜さんも。
玲衣 これで今年は本部もウチを潰しには来ないでしょう。
玲衣 それでテンション上がったんですね。てつきり、山中さん、ついに奥さんと
の別居が解消でもしたのかと…

テープを止める橋本。

橋本 それ、俺だよ。

玲衣 え？

橋本 奥さんと別居してるの。こいつ結婚もしてないし。

山中を指さす橋本。

玲衣 え、解消したんですか？

橋本 してねえよ。何なら子供とも最近会えてねえよ。

玲衣 え、じゃあ解消したって話なんなんですか？

橋本 それはお前が勝手に言ったことだろ。お前発信だから俺は知らねえよ…あと、
松原アン「ナ」ちゃんな。「松原アン」っていうのは、杏菜ちゃんが201
2年に、舞台女優に転身するときの二重名改名後の芸名だから。杏菜ちゃんの
本名は「松原杏『菜』」だから。「クライアントの名前くらいちゃんと覚えてろ」

橋本、再びイヤホン。

山中 俺、クライアントに「ちゃん」付けしてる方が問題だと思う。

玲衣 山中さん。

山中 ん？

玲衣 橋本さん、今日なんであんなに機嫌悪いんですか。

山中 しらね。離婚でもしたんじゃない？

橋本 してねーよ。…まだ。

玲衣 式場の責任者が離婚間近ってめちゃくちゃ縁起悪くないですか？

山中 確かに…。あ、知ってる？あいつの恨みつらみノート。

玲衣 なんですか、それ。

山中 日記みたいにして、夜、嫁さんへの恨みつらみを書いてるらしいよ。
玲衣 え、ケツの穴、小さ。

山中 第一、離婚しかけた原因はあいつにあるのにな。

玲衣 嫌ですねえ、ああいう男。…でも、いやだから私はやっぱり、新郎の薫さんに会えるのが楽しみかな。橋本さんの対極に行く。さわやかイケメン。えーそうか。…

玲衣 いやだって、かつこいいじゃないですか。緑戦隊ミラクルグリーンのモスグリーン。いやあ戦隊ものにこの年になつてはまるとは…

山中 流行りモンが好きだな、お前は。

玲衣 流行りモンじゃないですよ。私はズーッと前から好きなんです。

山中 本当かあ。

玲衣 知ってます。イケメンなんです。めっちゃイケメン。

玲衣、スマホで見せようとする。

山中 いや良い良い…

玲衣 だから、楽しみにしてたんですよ。打ち合わせ。そしたら…

山中 見事に杏菜さん一人しか来ない、と。

玲衣 はい…。ていうか、まず、七実さん、打ち合わせに同席させてくれなかったんですよ、ひどくないですか。一回たりとも…

山中 入社2年目(玲衣を指さす)。あいつ入社8年目(どこかを指さす)。

玲衣 ぶー今日こそ同席させてもらおう…

山中 …でもまあ、なんととっても大人気俳優だからな。あのモスグリーン。

玲衣 まあ来れないのは仕方ないですけど。

山中 いやあでも勿体ないなあ、あの人気なら、まだまだ色んな女抱けたのに…

玲衣 下品だな、このオッサン。

橋本 ちょ、ちよっとお前ら。

間が空く。

橋本 うるせえよ。…何この切羽詰まった状態ではしゃいでんだ、おい。

山中 いや、別に切羽詰まってるは…大概の仕事終わって、今日確認だけだし…

橋本 いや、それでもだな…

山中 第一さ、お前、今日は休むって言ってたじゃん。なんで急に來てんの。

橋本 いや、それは…お前らだけじゃ…ほら、心配だから。

山中 絶対そんな理由じゃないでしょ。だって今お前がしてる作業って誰でも出来

るじゃん。

橋本 そんなことねえよ、これは高度な技術が必要な…

山中 式のBGM入れに何の技術が必要なんだよ。CD再生する技術くらいだろ。

橋本 違うよ、ほら。松原さん、アイドル時代の曲を使いたいんだって、だから…

山中 いや、それは知ってるけど…あ、てかお前、それ見積もりに入れたっ

橋本 え？

山中 いや、BGMのCDレンタル代。まずいよ、お前、予算の最終打ち合わせ、すぐだよ？

玲衣 あと15分くらいですね。

橋本 ああ…その…大丈夫だよ。

山中 いや、大丈夫じゃねえよ。1円単位で今日ださなきゃいけないのに…

橋本 いや、あの大丈夫なんだよ。…これ、私物だから。

変な間が空く。

橋本 …なんだよ。

山中 …いや、お前さ。…ファンだろ。

橋本 え……な、何の。

山中 松原杏菜のだよ。…ファンだろ。

橋本 ち、違うよ、お前。

山中 いや、絶対そうじゃん。あー合点いったわ。

橋本 な、なに言ってるんだよ。

山中 …ファンだろ。

橋本 …いや、違うよ。

山中 ファンなんだから

橋本 だから違うって…

山中 いや、嘘つけよ。絶対ファンだよね。こいつ。

玲衣 そうだと思いません。

橋本 いや、ちょっと待てよ。

山中 え、一旦そうって言ってみて。

橋本 なんてだよ。

山中 いや、大丈夫大丈夫。俺もサードシングルくらいからファンだから。古参古参。

橋本 だから違うって…

山中 ……ああ、まあそうだよな。ごめんごめん、俺が間違ってた。

橋本 ああ。

山中 まさかな、あんなブス応援するやついないよな。

殴りかかろうとする橋本。

山中 ほら来たじゃん三怒りの余り、手が出たじゃん。
橋本 いや違う、これはあれだよ。どんな女性に対しても、ブスなんて言葉を使っちゃいけないって言う…

山中 嘘つけよ…じゃあさ、お前、嫁さんブスだよな。

橋本 うん。

山中 うんって言ったじゃん三全然言っていないじゃん三

橋本 惚れた時より20kgは太ったしな。もうアレは人間じゃない。

山中 すげー言ってるし。

玲衣 最低。…CDがあるってことは、松原杏菜って元々歌手の人なんですか三

殴りかかろうとする橋本。

玲衣 うわあああ三

山中 ちよちよちよ三

制されて、机に戻る橋本。

山中 え、知らないの。玲衣ちゃん。

玲衣 はい…女優としてはうっすら知ってますけど…

山中 アイドルだよ。アイドル。とんでもなかったんだから。当時は。

玲衣 へー。

山中 武道館埋めたり、ドームツアーったり、ラジバンダリ…

七実、非常に疲れた様子で、下手からやってくる。

七実 お疲れ様です…。

山中 おお、おかえり。準備できた三

七実 とりあえず、徹夜で…予算の決定稿です。

プリントを山中に渡す、七実。そのあと、橋本にも流す。

七実 あとはミスがない事を祈りつつ、これに判を押してもらうだけです。あ、山中さん、印鑑。

山中
ああ、はいはい。ミスがない事を信じて、式場副責任者様許可っと。ほい、総責任者様く

橋本に渡す山中。

山中
うまくいきそうじゃん、俺の助けいらなそうだね。

七実
いや、そんな…めちゃくちゃ大変でしたよ。それに、どうも音響の機材が思いの外、お金がかかるらしくて。もしかしたら、予算を超えちゃうかもです。

山中
あー。

橋本
おい、なに言ってんだよ。

橋本、空気を変える。

山中
え？

橋本
いや、そんなこと軽々しく言うなよ。お前知ってるだろ、うちの経済状況が思わしくないの。経営が危うくなる原因は何だと思う。…そういう小さなことなんだよ。そういう小さな予算オーバーが徐々に経営を圧迫し、うちの式場が本部から、目付けられて、そうなったら終わりだぞ…お前の努力は確かに認めるけど、本社から怒られるの俺なんだからな。

す…すいません…。

しばらくの間。すると山中、半笑いで。

山中
ファンが怒ってる。

は？

山中
さっきまでファンかファンじゃないかで揉めてたやつが、部下をすげー怒ってる。

お前、それは関係ないだろ。

橋本、山中に近づく。

山中
いやあごめんごめん。

橋本
そういうことを持ち込んだらダメだぞ…仕事に。第一ファンだとしたら、今日一旦来ないとか言わないだろ……ちゃんとくれば会え……会え……会える。

嬉しそうじゃんすげー持ち込んでるじゃん。

橋本
ちげーって…

七実 な、なにこれ。

玲衣 橋本さんが松原杏菜ファンであることを認めさせようとする、山中さんの図です。

七実 は、はあ…

玲衣 男ってバカですよ。

山中 ファンだったアイドルが、今からここに来るから、緊張して、そんなにピリピリしてるのか。…うわ、だせえ。

橋本 違うってお前、緊張じゃねえよ。本来、仕事って言うのは、これくらいの緊張感をもってやんなきゃいけないんだよ。

山中 ファンじゃん。

橋本 ファンじゃねえって…

山中 ファンじゃん…

橋本 しつこいなお前は…

山中 ファンじゃないやつ、プチ改名の話知らないんだよ…アンだろうが、杏菜だろうが…

オフィスの電話が鳴る。七実が出る。

玲衣 はい、こちらオフィスルームです。…あ、はい。到着されましたか。それではすぐに迎えに行きます。ありがとうございます。

電話を切る。

玲衣 守衛室からの連絡です。松原さん、到着したそうです。

山中 おお、まじで。

七実 よし、じゃあ迎えに行ってきます。

玲衣 え、今日、上杉薫さんいないんですか!?(希望を持って)

七実 それは…

山中 あ、ちょっと待って。…ここはいいよ。行ってくる。

七実 え…

山中 疲れてるだろ…ゆっくり休めよ。

七実 …ありがとうございます。

山中、一旦行こうとして。

山中 …お前も行く…

橋本

え

山中

いや、お迎え。お前も会ったことないよな

橋本

…一応、総責任者だしな。

山中

そういうの良いつて。

二人とも出ていく。

玲衣

なんだか、後半の発言にすべてが集約されてますね。

七実

あの野郎ども…。

玲衣

大丈夫ですかね。

七実

まあ、そこは…一応うちの式場のトップツーだし。

玲衣

そうですけど…でも、あの言い方、なんだか嫌いです。

七実

え

玲衣

橋本さんです。七実さんだって一生懸命作っただんですから、あそこまで怒らな

くてもいいのに

七実

…まあ、仕方ないよ。ミスしたのは私だし。

玲衣

でも、初めて担当ですよ。ミスしてあたりまえじゃないですか。

七実

いや、まあそこそこの私にこんな大物を回してくれたことに感謝しなきゃい

けないしね。仕方ないよ。

玲衣

…納得いかないな。

七実

まあまあ…ああ、ウェディングケーキの準備どうだった。今日でしょ

玲衣

あ、それだったら、もう試作が完成してるらしいので、後で確認してきます。

七実

了解。ドレスは

玲衣

えーっとそれは…

机を漁る玲衣。表紙が厚いアルバムのものを出す。

玲衣

ここに。…あぶないあぶない、なくしたかと。

カタログを七実に渡す。

玲衣

ちゃんとお願ひしてます。その12番。白鳥をイメージしたヤツですね。

…まあ、要は一番高い奴。

七実、少し見る。そして、周りを見渡して。

玲衣 ……どうしましたか

七実 ……え、玲衣ちゃん。…忘れてるわけじゃないよね

玲衣 え…何がですか

七実 いや、あの件。

玲衣 ……お尻の…いぼ痔ですか

かなりきつく口を塞がれる玲衣。

玲衣 ぶはあ「死ぬかと思った」

七実 そっちの件じゃなくて…ほら、式場使用の取り止め…

玲衣 ……ああ。それですか。

七実 冷静ね。変に。

玲衣 え、慌てた方がいいですか

七実 いや、そうじゃないけど…

玲衣 まあそうですね。…芸能人同士のカップルが式場まで予約した段階で、その新婦側が逃げ出そうとしているなんて。

山中、下手から入ってくる。

玲衣 前代未聞の大スクープです。思わず私も説明台詞。まさに七実さんの慢性いぼ痔並みのスク…

再び口を塞がれる玲衣。

玲衣 ふがふが。

山中 ん…どうしたんだ、じゃれ合って。

玲衣 いや、いえ…その別に…山中さんは、何を

山中 あー駐車場のセキュリティキーだよ。多分いい車で来るから。

玲衣 ああ、屋内駐車場。

山中 そうそう。

下手に消えようとする山中。

山中 あ、そうだ、田中。

七実 ……はい

山中 ボラギノールが効くぞ。

下手に消える山中。
解放される玲衣。

玲衣
ぷはあ…とりあえず今できることをしないとですね。まずは、ボラギノール
を買いに行きましょう。

玲衣、反応がない事を確認。

玲衣
…まあ、今頃ばたついても、仕方ないですし。

七実
無責任な…

玲衣
いや、だって責任ないですし。…だって私、打ち合わせにも参加してないし。

七実
恨んでる…

玲衣
少し。

七実
…一人で抱え込む自信なかったんだよお…あーでもなあ、こんな直前で言

ったら、橋本さんから私が怒られるし…

玲衣
子供じゃないんですから。

七実
初の担当だよ…成功させたいじゃん…

玲衣
七実さん…一回寝た方がいいですね…でも、ほんと突然ですよね、マリッジブ

ルー…

七実
こんな最終段階に入ってから…

玲衣
結婚って怖い事なのか。

七実
うーん。…あーもうやだ、しんどい…

玲衣、カタログを無為に見だす。

少し間を空けて。

玲衣
…え、懂れます…

七実
え…

玲衣
結婚式。

少し間が空く。

七実
…まあね、女の子ならみんな懂れるでしょ。結婚式で、綺麗なドレス着て。み
んなから祝福されて…

玲衣
へー七実さん、そのタイプですか。

七実 ……え？

玲衣 いやあ私、結婚式自体は好きなんですよ。煌びやかですし。…でも、あの主演の舞台に立ちたいとは思わないというかー。一人の男性に一生尽す気力もないというかー。まず、そう考えたら、結婚式が一人の男に従属するための生贄の儀式に感じるといえるか。

七実 ……あ、あなた、よくここに入ってきたわね。

玲衣 まあ、そーゆー学校に通ってたので。いや、念を押しておきますけど、結婚式自体は好きですよ。念押しとききますけど。

七実 もう分かったってば。とりあえず、一旦、この話は置いておくか…

玲衣 置いておく時間も少なそうですけど。もう怒られるのは覚悟して…あとはオッサンズに責任をポイイって。

動いている七実。

玲衣 聞いてます。人の話。

七実 聞いている聞いている。

玲衣 少し休んだ方が…

七実 言ってもらえない。すぐ来るから。

七実、デスクの上にあるコップを見つけて。

七実 これもう飲まない。

玲衣 あ、はい。お願いします。

長女丸出しでコップを片付ける七実。

玲衣 でも七実さん。

七実 何？

玲衣 私もですね、考えてるんですよ。色々。結婚のこと。

七実 まだその話。あ、あぶないあぶない。

零しそうになる七実。

玲衣 このままじゃいけないあって…一人の男性を愛さなきゃいけないあって。

…ぶらぶら生きていても、世にいう「本当の幸せ」っていうのは、掴めないのかもしれない…って。

七実、ほとんど聞いてない。

玲衣 確かに「本当の幸せ」を追い求めるだけが人生じゃない、それも分かっています。でも…でも、すぐ枯れはててしまうんです。

七実 玲衣ちゃん、ポットのお湯がもう…

玲衣 20代なんて一瞬。そのあとは寂しく枯れるだけ。

何かが刺さる音。

七実 はうっ…

玲衣 あれ…七実さん、何か言いました。

七実 …いや、ポットのお湯切れそうだから…あと、私もキレそうだから…後で補充しておいて。

玲衣 あ、はい…

腰を抑え、謎の音楽を歌いながら、上手へ消える七実。

七実 ご祝儀ばかりが逃げていく♪先月合計6万円♪

玲衣 …ついに七実さんまで変になってしまった。…長くないな、この式場。

カタログを閉じたりと作業する玲衣。

鳴る呼び出し音。

玲衣 ああ、はいはい。今…

下手から入ってくる、サングラス・マスク・帽子姿の杏菜。

玲衣 え…あのその…あ……不審者だな、ため…芸能人カップルが来るから…

近くにあった箒でしばく玲衣。

玲衣 コノヤロー「帰れ帰れ」このやろう…

お茶を持って帰ってくる七実。

七実 え、どうしたのー
玲衣 ああ七実さん、不審者です。帰れー三薫さんの幸せを奪うなー二
杏菜 ちよつとー
玲衣 ん、なんだ、不審者。
ただでさえ舞台後で調子が悪いのに…

サングラスとマスクを取る杏菜。

杏菜 これはどういう…
七実 あ、杏菜さん…
玲衣 …え、この人が…
七実 ああ、すいませんー

誤って玲衣にお茶をかける七実。しかし気づかない。

玲衣 あっち、あっちー
七実 この度はうちのものが大変なご迷惑を…三
玲衣 やけどするー三
七実 どこかお怪我はありませんか…
杏菜 ないですけど。
七実 あーよかったです…と、とりあえず、どうぞこちらにお座りください…もう、
玲衣 玲衣ちゃん、なにさらしとんじゃ我れ…
七実 七実さん、お股が熱いです…
杏菜 杏菜さん、今日は予算の最終確認をお願いしますんですけど大丈夫ですかね…
杏菜 はい。それよりも、彼女。

杏菜、玲衣を一瞥。

玲衣 あぢー…
七実 あれ、上のものが…ちよつと…まだ…ですかね。

いないことを確認した後。

七実 …いや、あのー杏菜さん…でしたら式場のキャンセル料の話なんですけど…
杏菜 ちよつと待ってください。…この後、もう1人来ますから。その時に。

七実 ああ、いやでも…

目の色を変える玲衣。

玲衣 も、もう一人にえ、薫さんに上杉薫さんにモスグリーンにモスグリーンに
七実 ちょっと邪魔しな…

玲衣 教えてくださいよ、あ、初めまして、高橋玲衣です。ねえねえ杏菜さん。

明らかに不遜な態度をする玲衣。

七実 ちょっとあんた…

杏菜 …股の所、何か生暖かいんですけど。

玲衣 え…あ、違う違う…おしっこじゃないこれ、ティーティービー (Bee) じゃない…

杏菜 ちょっと離れて…

玲衣 信じておしっこじゃないからおしっこではないから…

稲田 すいません。
玲衣 はっ…その勇ましい声はまさにモスグリーンにカオルツサーン…

玲衣、走って下手へ。

稲田登場。

稲田 こちらでよろしいでしょうか。

玲衣 チガウオツサーン…

そのまま消える玲衣。ドンガラガツシャーン。

七実 あのーそちらの方は…

稲田 ご紹介遅れました。はじめまして、松原アンのマネージャーを務めております、
稲田誠と申します。

名詞を渡す、稲田。

七実 ああ、はじめまして。あのーところで入口の所でウチのスタッフがお出迎えして
いなかったでしょうか…

稲田 ああ、あの下品そうな2人組ですか。まだ玄関前で尻尾を振って待っていると

七実
思いますよ。
巻かれてる…

玲衣、再登場。

玲衣
薫さんじゃない…私の薫さんじゃない…
七実
だ、大丈夫…
玲衣
ちよつと誰、あんた。薫さんは…

稲田、玲衣に一瞥もせず。

稲田
私は彼女のマネージャーです。そして薫さんは現在、地方で撮影中です。
玲衣
いつ来るの…
稲田
本番は来るかと。
玲衣
他の日は…
稲田
薫さんは当事務所ではないので、それ以上は。
玲衣
ガルルル…
稲田
…申し訳ありません。この獣化した方をどうにかしていただけませんか。
七実
ああ、す、すいません。ちよつと玲衣…高橋さん…こっちに…

玲衣、移動。

七実
で、では今日は予算の最終確認ということなのですが…

玲衣、まだ猛獣。

七実
高橋さん、あの、ポットのお湯。替えてきて。
玲衣
ガルルル…
七実
あ、あとそれより前にほら、調理の人にウェディングケーキの話。聞いてきて。
玲衣
ガルルル…
七実
ハウスツ…
玲衣
ガルルル…

玲衣、下手へ消える。

七実
そ、それでは早速打ち合わせの方を…なんですすが…

七実、杏菜に喋れと合図を出す。しかし、杏菜無視。

杏菜さん(小声)

日程が4月の5日、土曜日。会場キャパシティは150人、参列予定人数は80名。うち、新婦側30名、新郎側50名。オプションを含めた合計金額が426万7350円…。

は、はい。そ、そうなります。426万7350円…

…それでは今からを双方の質問の時間としましょう。

無為な時間。こらえれず喋りだす七実。

七実 いや、でも。あれですね。芸能人の方で、うちの式場使われるの、すごく珍しいですよ。もしかしたら初めてかも…

稲田 結婚式場は大きさや清潔感ではなく、新婦の生まれた家の近くでいたい…という新郎側の意向です。

七実 …そ、そうでしたよねー。

杏菜 勝手にべらべら喋らないで。

稲田 これは失礼。

間が空く。

稲田 それでは質問時間の方を…

マネージャーの携帯が鳴る。

稲田 おっと、少し失礼いたします。こちら。…はい、稲田です。

ハンコを杏菜に渡し、下手に消えるマネージャー。

七実、消えたのを確認してから。

七実 ちょ、ちょっと。は、杏菜さん…

杏菜 いい天気ですね。気持ちよさそう。

七実 そんな話じゃなくて…どういふつもりですか…

杏菜 どういふつもりとは…

七実 先週の話です「結婚式をキャンセルしたいって…

杏菜 ああ、それですか。

七実 なんですかまた心変わりですか…まあ、そっちの心変わりなら、うちもありがたいですけど…

杏菜 いや、キャンセルはしますよ。

七実 え。

杏菜 はい。

七実 …じゃ、じゃあなんでさっき言わないんですか…とくにキャンセル料発生してますからね…

杏菜 払います。ちゃんと。

七実 いや、そういう問題じゃなくて…

杏菜 …まあ素人さんにはわかんないでしょうけど。芸能人ってイメージ商売なんです。私がそれほど気にしなくても、マネージャーだったり、周りが気にする。そしたら面倒。とりあえず、一旦結婚しろとか言われるし。ギリギリでキャンセルなら、事務所の人間も言いつこなし。もうどうしようもないしね。

七実 は、はあ。

杏菜 …あなたには分からないでしょうけど。

七実 …好きじゃないんですか…

杏菜 え…

七実 旦那さんのこと。

杏菜 …最近のブライダラーはそんなブライベートにまで踏み込むんですか…
七実 いやその…

契約書を手繰り寄せる杏菜。

ハンコを出して、印を押す。

七実 いや、私だってこれ、あれですからね。徹夜で作ったんですからね。見てくだ

さいよ、このクマ。乙女にあるまじき…

杏菜 それがなにか。

七実 何…って努力無駄にするみたいな…なんていうか。

杏菜 最近のブライダラーは感情的。

七実 く、く…

ハンコを押し終え、控えを切り取る杏菜。

杏菜 はい、原本。これで報われました…

七実 …。

杏菜　じゃあまた、すぐに。ちゃんと細かいところ、考えておきます。一応。…今日は

これだけですよね♡

七実　は、はい。…そうです。では、来週、お願いします。

下手に消える杏菜。

七実　ぐぐう…

玲衣、下手から入ってくる。

玲衣

ちょ、聞いてください！今、あの人がすれ違ったのに、あいさつもしなかったですよ！なんなんですか高飛車な…あ、あと、モスグリーンのウェディングケーキはきもいです。なんか、苔生えてんのかと思いました。

七実、頭をかく。

玲衣

聞いてます♡

七実、判の押された契約書を見せる。

七実

え、なんで契約してるんですか？

暗転する舞台。場面転換。

スポットが玲衣に。

音楽が流れる。

玲衣

契約で押し切られてしまった七実さん。とりあえず、原本を机の引き出しに隠し、明らかに動揺丸出しの様子でその日は過ごしていました。そのあと、月火水木金土…結局責任者である山中さんや橋本さんには話を言い出すことは出来ませんでした。本当に大丈夫なのかなあ…

玲衣、消える。

後ろにマスクをした山中がいて、呼び出し音。

山中

はい…どうされました…♡

稲田が入ってくる。

山中

あれ…あなたは♡

フェード暗転。

音楽がフェードアウトした後。

ゆっくり明転。

七実と玲衣が立っている。

七実

つまり、その件に関しましては、私にも責任があります。本当にすいませんでした♡

玲衣

はーいカット♡…うーん、なんか物足りないですね。

七実

物足りない♡

玲衣

すいませんでした♡に迫力がありません。

七実

迫力♡

玲衣

ああ、この人が凄く反省してるんだな、許してあげたい…って思えないです。

七実

いる♡そんなの。

玲衣

まあ、今回の件も少し前までなら、七実さんのせいじゃないですけど、ここま

七実

で引き延ばしたとなると…ね。

玲衣

だって…まだいうなって…

玲衣

ほらこう…すいませんでした♡

玲衣、実際にやってみせる。そして七実にも促す。

七実はソファの方向に頭を下げ続ける。

七実

すいませんでした♡

玲衣

もっと♡

七実

すいませんでした♡

玲衣

もっともっ♡

七実

すいませんでした♡すいませんでした♡

その後もずっとすいませんでしたと連続する七実。

山中がファイルを持って下手から入ってくる。

玲衣は面白くなりそうだと思ひ、放置して席に戻る。

山中

ゲホッゲホ。…ん♡

七実
すいませんでした…すいませんでした…

山中、七実でアルコリズム体操（の一部）。最後は止めて、頭に当てる。

七実
あいで…はっ山中さん！

山中
ソファに何か悪いことしたの？

七実
いや、そういうわけじゃ…

山中
へ、ヘーックション！

明転。もろに食らう七実。

七実
ぐわ…

玲衣
ちょっとお、うつさないでくださいよ。

山中
仕方ないだろ。俺も好きでひいてるわけじゃ…。

玲衣
マスクしてくださいよ。

山中
あれ苦手なんだよ。酸欠で頭痛くなる。

玲衣
来ないのに何十分も外で待ってるからですよ。

山中
毎日毎日うるさいな。橋本のヤローみたいにインフルにまでなってる、ずっと寝込んでないだけマシだろ。俺は、ただの風邪だから。（鼻をかむ）

玲衣、七実にチャンスだと指示。煮え切らない七実。

山中
七実ちゃん。

七実
はい！

山中
予算の契約書、準備した？

七実
…ああはい。あ、でも先週のやつ使いまわすのもアレなんで、ちょっと印刷しなおしてきます！

七実、PCをいじり、コピー機の上手へ。

山中
わざわざいう事でもなかったか…でも、まさかごねるとはな。芸能人が。予算の事でさ。

玲衣
ソウデスヨネー。ヨサンノハナシデ。

山中
別に特別高いわけじゃないぞ。うちの式場の使用料。

玲衣
マッタクデス。イッタイナニヲカンガエテルンデシヨウカ。

山中
そうだよなー。芸能人ならもっと夢見せてほしいよな。

玲衣 ソウデスネ。テンニノボルヨウナスバラシイユメ。アノスバラシイアイヲモウイチド。

七実、戻ってくる。

七実 今、刷りなおしてきました。一応再確認の方を…
山中 了解。

七実、一気に玲衣に近づく。

七実 あんた、何も言っていないでしょうね…

玲衣 言っていないですよ。ちゃんと守ってます、緘口令。

七実 本当に…

玲衣 本当ですよ。あ、芸能人が嫌いになるくらい我儘って話はしましたけど。

七実 あんたのことだから、ポロっと言っちゃいそうな…

玲衣 心配しすぎですって。あんまりストレス溜めてると、増えますよ、痔。

七実 増えるか…

玲衣 まあそれはそれとして、早く。

七実 え…

玲衣 タイミング。今しかありませんって。こっちもこれ以上何日も夜駆り出されたくないです。

七実 それは、ごめん…

玲衣 ほら…

七実 言う…言う…

玲衣 そうそう。

七実 言おう…言おう…

玲衣 そう…

山中 あれー。おいおいおい。ちょっとこれ。

七実 おお、はいはい。なんでしょう。

山中 いや、なんでしょうじゃなくて、ここ。ここ。

七実 え…

山中 ほら、式場契約約款のところ。ここ間違えてるよ。

七実 え…はっ…

山中 お前、おかしいじゃんよ。なんで1カ月前30%、2週間前50%って増えていくのに、それ以降10%なんだよ。(笑い含み)

七実 ほんとだ、私ったらよりによってキャンセル料の所間違えてる…

山中 え、まさか先週から？

七実 いや…そんなわけ、それ、あれ、あのー…作り直したんでー。それでー。
山中 うわあ危ないミスだなあ。

七実、原本を確認。そして崩れ落ちる。

山中 お前、見たことないよーこんなミス。100%どころか桁が足りないってハハハ。

七実 ほ、本当ですよー。私ったらもうっ！

山中 いや、橋本もよく気づかなかったな。でもよかったよ、契約する前で。

七実 契約する前で。

山中 うん。そうそう。契約する前で。これ、もし契約してたら、キャンセル料もらえなくて、ウチ破産しちゃうよー！

七実 ハハハ。そうですよね、破産ですよー！

山中、急にマジトーンで。

山中 でも、うちの式場の規模ならな。…400万近く損害が出るわけだから。
…完全につぶれるな。

七実 いや、でもほら…契約前ですから。

山中 それもそっか。ハハハ。

笑う二人。山中は途中で咳き込み、ティッシュを使う。

七実「やべえ」って顔。玲衣、静観。

山中 ありゃ、ティッシュなくなっちゃった。…確か控室にあったよな。箱ティッシュ。
ユ。

七実 ああ、あつたとおも…

山中 了解。あー。ブクシユ…

山中、下手へ。

しばらく間をおいて。

玲衣 …七実さん。…仕事紹介しますね。

七実 …。

玲衣 いや、見事なまでの解雇決定でしたね。言おうかと思いましたがもん。契約して

七実　　ますよくこの人、100で契約してますよって。
遊ぶな、人のミスで。

引き出しを開ける玲衣。

玲衣　　だから言わなかったじゃないですか。あ、100だ。あーあ。400万の損害。

七実　　ま、まずい。

玲衣　　問題増えましたね。うーんでも夜の世界に働かせるには歳が行き過ぎて
いる…

七実　　うるさいわね。

玲衣　　徹夜で作ったものあるある。考えられないミスをする。なんですか、この超展
開。笑います。

七実　　笑ってんじゃ…笑ってしまうなこれは…どうしよう。また言えなく…どうす
れば…

玲衣　　うーん。対策を練るか、大人しく退職するかしかなくないですか

七実　　…対策を練ろう。

玲衣　　手伝います。

七実　　ありがとうございます…うーんとどうしよう…

玲衣、時計を持って。

玲衣　　約束の時間まであと1時間でーす。

七実　　もう契約書の写しはあっちにあるわけだし。

玲衣　　あの人、いじわるそうだから、事情説明しても払ってくれなさそう。

七実　　た、確かに…

玲衣　　波乱の初担当。

七実　　土下座して、式だけあげてもらおうとか…

玲衣　　誓いの言葉の時に誓わなそう。

七実　　う…じゃあまずは、山中さんに相談して、そのあと橋本さんに…

かかってくる電話。玲衣が取る。

玲衣　　はい、こちらオフィスですけど…え、もうですかあ、いや…了解しました。

電話を切る玲衣。笑顔。

玲衣 いや、もしもの話です。

山中 ええ…ああ、まあ色んな仕事振らないといけなくなるから、少しは上がるかも

玲衣 しれないけど…どうしてそんなこと聞くの？

玲衣 もしもの話です。

山中 そうか。

玲衣 はい。

山中 …でもまあ、大丈夫だろ。

玲衣 …え？

山中 ん？

玲衣 なにが大丈夫…

山中 …さあ。…あのさ。

玲衣 はい？

山中 女心って難しいな。

玲衣 急に…フラれでもしたんですか？

山中 いや別に。

玲衣 …歯切れ悪いなあ。

下手からなぜかカセットテープを持った七実が出てくる。

七実 松原杏菜さんのオナーリー…

妙に壮大なBGM。

松原、下手から入ってくる。

BGMが切れる。

松原 …私、大名（このセリフはBGMに依存）じゃないんですけど。

七実 いえ、しっかりとお迎えしなければ…と。

松原 慇懃無礼。

七実 それで、先ほどから申しておりますとおり、キャンセルの件に関してキャンセルしてほしいと言いますか、もうこれしかないと言いますか、それでも誓いの言葉は誓っていただきたいと言いますか…

山中 松原杏菜さん…

七実 ぎよ。

山中 はじめまして、どうもわたくし山中と申しまして、当式場の副責任者を…

七実 追いかけてこられた方ですよ？

山中 はい？

杏菜 いえ、帰り際に。車の後ろに。

山中 あ、覚えていただいて、光栄です。

玲衣 不審者。

杏菜 もう1人の方は今日はいらっしゃらないんですね。

山中 ああ、アレですか。アレはインフルです。いやあ馬鹿は風邪をひかないって言いますけど、インフルはかかるんですねえ。ああ、よかったら握手の方を…

七実 いや、あのキャンセルの方を…

杏菜 よろしければ、お茶をお願いします。あと、その話は、このあとマネージャーが来ますので、その時に。

七実 お、お願いします…本当に。

玲衣 あ、私も手伝います…

玲衣、七実についていこうとする。

山中、杏菜に握手をしてもらっている。

七実 ああ、大丈夫…玲衣ちゃんはその人(松原杏菜)が変なことを言わないかだけ、

玲衣 見ておいて…

ああ…わかりました。

七実 くわばらくわばら…

七実、上手に消える。山中、紙を差し出す。

山中 あのーサインも…

無言でサインを書く、杏菜。

山中 あーありがとうございます。これは家に持って帰ってね、家宝に…

ロッカーを開ける山中。

中に特攻服を着た橋本。

橋本 杏菜ちゃん。

山中 うわああああ…

橋本、出てこようとする。反射的に閉める山中。

橋本 行って三何しあがんだ、てめえ。

山中 何しあがんだじゃねえよ、なに人のロッカーに入ってるんだよ。

橋本 今、俺ロッカー散らかってんだよ。

山中 そうじゃねえよなんでロッカー入ってんだって二

橋本 だから俺のそこは汚ねえんだって二

山中 だからそこじゃねえって二

橋本 現在、インフルエンザにより、絶賛出勤停止期間です。排菌中ゲッホゲホ二

わざと咳をする山中に向かって橋本。手で払う山中。

橋本 こちら守衛さんに土下座して、朝から入ってんだ二

杏菜 一体…どなたですか二

橋本、ロッカーから出てくる。

橋本 どうも、初めまして。いや、初めましてではないですね。ライブの時に何度か

目がお会いしましたものね。

初めまして。

橋本 …ハハ。どうも当式場の総責任者、そして、松原杏菜親衛隊筑紫東支部支部長

付補佐及び副支部長代理、橋本博暁と申します。…お願いしまーす。

山中 お願いしまーすじゃねえよ。

橋本 松原杏菜さん。僕は握手もサインも、いや…一切何も求めません。…ただ、あ

玲衣 なたに会うことが出来たら。

気持ち悪。

橋本 …山中二

山中 なんだよ。

橋本 お前、杏菜ちゃんのファンだとか言ってたよな…

山中 言っただけ…

橋本 あのな…俺はお前なんかとは比べ物にならないくらいファンだからな二ファ

山中 …ストシングルから…いやデビュー前から二根っからファンだからな二

橋本 …知らねえよ二

だから俺は式の担当もお前じゃなく、田中にした。お前がまかり間違わないよ

山中 うにな…俺が、俺が杏菜ちゃんを守る二

お前、そんな理由かよ二ふざけんな二

橋本に食って掛かる山中。

橋本 杏菜ちゃん、好きだー！：頭おかしくなるくらい好きだー！
玲衣 もうおかしいでしょ。

七実、上手から入ってくる。

七実 なんかやけに騒がし：うわあ不審者！

橋本にお茶をかける七実。

山中も被弾。

山中 あっちー！：あっちー！

橋本 やけどする！

七実 うわあ、橋本さん。なんですか、その格好。

橋本 それよりあっつい！やけどする！

呼び出し音が鳴り、稲田、下手からやってくる。

玲衣 あ。

全員静止。稲田、状況を見て。

稲田 …随分ととっ散らかった状態ですね。

橋本 え…誰？

玲衣 マネージャーさんですよ、杏菜さんの。

稲田 遅れてしまい、申し訳ありません。

七実 それでは最終打ち合わせの方を…

横に強引に入り込む橋本。

七実 うおっ。

橋本 始めさせていただきます。本日印鑑の方はお持ちでしょうか？

稲田、印鑑を取り出す。

橋本 ありがとうございます。

玲衣 ああいう大人にはなりたくない。

杏菜 ここに判を押さなければどうなるんですか？

橋本 …はい？

杏菜 判を押さなかったら。

橋本 …それは契約が不成立となりますけど…えい

杏菜、静かに印鑑をしまう。

橋本 いや、え…まさか…。

七実の方を見る橋本。

橋本 なにか不手際がありましたでしょうか！

山中 自分の格好見ろよ。

七実 いやその…

橋本 すいません、彼女、担当についたのが初めてのものでして、何か気分を害する
ようなことをしてしまいましたでしょうか！

間が空く。

橋本 田中、お前…

七実 いや、あの…

橋本 とんでもねえことを…

玲衣 うわああその…違います！違うんですよ…

橋本 ああん？

玲衣 ええ…その…もう言いますよ…

七実 あ…う、うん。

玲衣 実は、前から杏菜さんは結婚式をキャンセルしたがってたんです…ずっと前から…でも、でも、それなのに杏菜さんがイメージだとかなんとかで回りがうるさいって、なかなか実行にうつさなかったんです、それで七実さんはそれで抱え込んで…だから、この結婚式はキャンセルになるんです…

間が空く。

玲衣 あれ…もつとドーンって。えーってドーンって。

稲田 知ってましたよ。

玲衣 えい、えい…山中さんは知ってた。

山中 ええええ、橋本さんは知らなかった…

玲衣 あ、驚きで固まってるだけだった。

七実 でも、知ってるって…

稲田 …長い間マネージャー稼業やってますからね。…それに、それに…

七実

稲田、あまり言いたくなさげ。山中、少しカッコつけて。

山中 …じゃあ、俺が言おうかな。

玲衣 えい

山中 勤続20年。いろんな結婚式があったけど…3日前に稲田さん一人での式場に来たんだ。それで、俺がもしかすると式がキャンセルになるかもしれないと相談を受けた。

橋本 なんだよ、それ聞いてないぞ。

山中 杏菜さんには…別に結婚しようとしている人がいる。

全員 ええい

玲衣 そ、そうなんですか…

杏菜、玲衣の問いかけに無反応。

山中 その相手…相手というのが、彼。マネージャーの稲田さんだ。

玲衣 しかもマネージャーさん…

山中 稲田マネージャーと杏菜さんは19歳の時。つまり、彼女が歌手活動を辞めた頃から、交際を始めた。それで4年間。芸能人と担当マネージャーという関係を超えていた…らしい。

橋本、怒りを禁じ得ず。

橋本 お前、コノヤロウ担当マネージャーの分際でそんなことが許されるはずがないだろう…コノヤロウ…

殴りかかろうとする橋本。無抵抗の稲田。

ロッカーに押し付ける。

玲衣 うわあちよっとおじさん！

稲田 分かっていましたよ。…わかっていました。そんな関係が許されないこと。

橋本 分かってたなら、なんでそんなことをしたんだ！お前は考えたことがあるのか、ファンの気持ちを三届かないと知りながらも応援し続けるファンの気持ちを三リラックス！

杏菜 私から言い出したんですよ。

橋本 え？

杏菜 私から。交際を。

橋本 そんな…そんなまさか…ええ！もうええ！俺もうわかんないよ。

玲衣 うるさいな、この人。

稲田 :彼女は12歳の頃からアイドル活動を始め、社会の事なんて何も知らな
いまま、スターダムへのし上がっていきましました。今まで友人関係や日常生活、
そして青春をすべて投げ出した彼女には…せめて好意だけにでも答えてあげ
たかった。

山中 しかし、彼女の気持ちは今回の新郎…つまり上杉薫さんに移っていった。…そ
れが分かった稲田さんは、すんなり身を引いた。

間が空く。

橋本 すんなりと身を引いた…ふど、どうして。どうしてだよ。

稲田 確かに彼女と僕は、4年間交際していました。彼女が僕に交際を申し込んで
きたときから気付いていました。本人は気付いていないかもしれないが…そ
れは恋愛感情によるものなんかじゃない、ってこと。私も長くマネージャー稼
業をやってますから。

山中 内容聞いたら、よくある話だよ。俺たち一般人に置き換えたら、先生のこと
が好きなようなもの。いたろくクラスに一人くらい。

橋本 ああ、確かに。

玲衣 いましたけど…

杏菜 …どうということ？

稲田 え？

杏菜 それなら稲田は…あなたは私のお飯事に付き合ってるつもりだったの…女
学生の、恋のお飯事に…

稲田 そんなんじゃない。…でも、24年間かけて、君は恋をすることが出来た。

杏菜 それでいい。それは素晴らしい事だ。

杏菜 ふぎけないで…稲田は…4年間も…私を…私の事を…もし知られたら、事

務所からファンから何されるかわからないと知りながら、私の事を愛してくれたのに…それを無視して結婚するなんて私は…あなたの気が済んでも私は…

稲田 ……
杏菜…：…もういいんだよ。…君は、君の事だけを考えていいんだ。…もう自分の事だけを。

杏菜

間が空く。

橋本 ……山中。

山中 あん。

橋本 これってチャンスかな。

山中、肘鉄。

橋本 ……ぐはあ…

山中 あのーもしアレでしたら。後日でも。…式まではまだ少しありますし。…考える時間も必要でしょうから。…日程的大丈夫だよな。

七実 ああ、はい。

スケジュール確認をする七実。

七実 はい、一応まだ打ち合わせようと思えば、時間は。それに、最終打ち合わせですし、特に時間も…

稲田 ……ありがとうございます。すいません、こんな事、みなさんの前でするつもりもなかったのですが…

山中 ああ、僕が出すぎた真似を…

稲田 いえ…：…僕も踏ん切りがつかなかったのです。

玲衣 ……踏ん切り。

稲田 ありがとうございます。下品という言葉は撤回します。それでは…：杏菜。

山中 はい。…え？下品？

玲衣 ああ、面倒なんで、後で。説明します。

稲田、深々と礼。杏菜を連れて下手へ。

しばらく無言の式場メンバー。

七実 終わった…んですか？
山中 いや、まだ打ち合わせがあるから終わってないな。な、田中さん。
七実 は、はい。そうでした。
山中 今回は許すけど、今後、こういう大切なことはすぐに上に回せよ。
七実 本当にすみませんでした。
山中 はい、今すぐキャンセル料訂正。
七実 はい。

七実、作業に入る。固まっている橋本。

山中 おい、何固まってんだよ、親衛隊。
橋本 いや…あの、いろいろありすぎて…もう何が何だか。
山中 じゃあ、早く帰ってくれよ。今、インフルエンザがオフィス中にまき散らされてんだよ。
橋本 いや、もう治ってるから。
山中 そういふ問題じゃねえって。
橋本 ごめん、その前に、ちょっと裏で休んでくるわ。頭痛い。
山中 ちっとも治ってねえじゃねえか？

上手へ向かう橋本。

山中 いや、帰れって。
橋本 うるさいな、お前。
山中 だって、うつされたくないもん。
橋本 ロッカーからの登場でよかった。
山中 は？
橋本 普通に来ても帰されてたわ、あれ。
山中 おい「おーい」

橋本、上手へ消える。

山中 あいつ、ほんとデリカシーないな。
玲衣 典型的なブラック上司ですね。
玲衣 でも、ひも解いてみたら、案外普通の人でしたね。杏菜さん。
山中 まあ、舞台降りれば、普通の女の子だからな。…それは仕事の俺然り、お前然り、そしてマネージャー然り。

ロッカーを開ける山中。

山中

うわ、あいつのにおい…くっせ…ちょっと消臭剤とってくるわ…

上手に消えようとする山中。疲れ果てた七実に気づき、玲衣に指示。

玲衣、七実の方に行つて。

山中、上手に消える。

玲衣

…まあ、5…5だったのが、8…2になった感じがしますね。

七実

えっ

玲衣

あ、8がやる方ですよ。

七実

…ありがと。…でも根拠は…

玲衣

…うーん。女の勘ですかね。

七実

信頼度低。

玲衣

あれだけ振り回した先輩の発言ですか、それが…

七実

ごめん、ごめん。

玲衣

ひどーい、この先輩。

少し間が空いた。

音楽が流れ出す。

七実

本当の恋…ねえ。

玲衣

マネージャーさんですか。

七実

なんだかよくわかんないなあ、男女関係って…。

玲衣

恋、嫌になりました。

七実

…それはないかな。

玲衣

…1990年生まれ。

七実

何が言いたいの？

玲衣

いえ、別に何も。…でもわかります。いいですね、恋。結婚。ちょっとだけで

七実

すけど、ウェディングドレス着たくなっちゃった。

玲衣

でしょ？綺麗だもんね。あれ。ほら、これ。杏菜さんの前撮り。

七実

うわあ、綺麗。あとはあれば本番ですか。…あー私も注目されずに、こっそり

玲衣

着れるとこないかなー。

七実

コスプレカフェ。

玲衣

それはまた違うでしょー。

電話が鳴る。

玲衣 はい、こちらオフィスです。あ、山中さんですか。どうされましたか…休憩室ですかあ、わかりました。すぐ行きます。

電話を切る玲衣。

玲衣 呼び出し食らっちゃったんで、行ってきますね。
七実 ああ、分かった。

上手にはける玲衣。
七実、自分の席に座る。

七実 よーし。…がんばりますか。

何か作業を始める七実。
ゆっくりと暗転。
音楽が大きくなる。
明転すると、オフィスには橋本だけ。
以下の式場の人物たちは胸にコサージュ。

橋本 はい。はい。そうですね、予定通り13時に搬入の方をお願いします。組み立て設置の方はこちらの方でしますので…はい、ありがとうございます。お願いいたします。

玲衣、コーヒーを持って上手から出てくる。
コーヒーを置く。
下手から山中登場。

山中 ああ、あの橋本。ちょっと来てくれないか派遣で来た子たちが指示が出てないって働いてくれなくて。
橋本 ああ、ちょっと待ってくれ、後で行く。
山中 ちょっとなるべく早くね。全然いう事聞いてくれないんだよ。
橋本 了解。

山中、下手へ。
橋本、玲衣に気づく。

橋本 ああ、ありがとう。

玲衣 ああ、いえいえ。あと、七実さんからの連絡で、新婦さん、時間通り到着する
そうです。

橋本 了解。

玲衣 いや、でもよかったですね。ギリギリで治って。

橋本 ぶり返したインフルはあんなにつらい物かと思ったな。

玲衣 ハハハ。

橋本 …でもな、実はいい事もあったんだよ。

玲衣 いいこと何ですか

橋本 いや実はな、これ。

携帯で写真を見せる橋本。

橋本 これ俺のアパートの台所なんだけど。

玲衣 ん？誰ですか、このトドは。

橋本 人な。

玲衣 ああ。

橋本 俺の嫁。

玲衣 あれでも奥さんと絶縁状態なんじゃ…

橋本 いやそうだったんだけどな、あまりにインフルがひどいからって、ダメもとで

頼んだら、治るまでずっと看病してくれたんだよ。

玲衣 ええに本当ですか

橋本 ああ、しかも泊まり込みで。

玲衣 おお。もう復縁状態じゃないですか

橋本 そうだよーいや、今日も朝出てくるときにな、寝顔を見ると…ああ、やってい

けるな。この天使と。ってな。

玲衣 うわーすごいー！

橋本 そうだろー！

玲衣 すごいきもーい！（一緒にテンションで）

橋本 そうだろうそうだろう（気づいてない）

メールの受信音。

玲衣 あ、携帯なってますよ。

確認する橋本。そして画面を見せる。

橋本 愛妻。

玲衣 ふー

橋本 メールだ、メール。

玲衣 ええ、見せてください！

携帯を開く橋本。

玲衣 旦那様へ。インフルエンザが治ってよかったです。今日のお仕事もがんばってください。

橋本 いや、照れるなあもう。

玲衣 ハンコは机の引き出しから勝手にお借りしました。また、養育費の誓約書も机の上に置いておいたので、しっかりと目を通しておいってください。

橋本 …えっ

玲衣 昨日、机の上にあったノート見させていただきました。やっぱりあなたとやっていくことは出来ないことが分かりました。届の方は今日の昼に市役所の方を持って行きますので、どうぞ、仕事に専念されてください…

呆然とする橋本。

玲衣 恨みつらみノートばれて…因果応報

橋本 こんなことしてる場合じゃない！

立ち上がる橋本。自分の鞆を持つ。

玲衣 橋本さん、どこに行くんですか？

橋本 家だよ家。届出される前に…

玲衣 は、はあ。

山中、下手から再登場。

山中 橋本！ちょっと来てって。もう派遣の子たち、会場の音楽に合わせて踊りだしたりして…

橋本 うるせーなー…今、人生の交差点なんだよ

山中 は…

玲衣 ほぼ赤信号です。

山中 はあ…

橋本、下手にはけようとする。

橋本 山中…独り身のお前にはわからないかもしれないけどな。…結婚っていうの

は…そういうもんなんだよ。

橋本、下手へはける。

山中 …何があったんだよ…え、何があったの…

玲衣 いや、その…離婚。

山中 …え…橋本が…

玲衣 はい。

山中 えー…えー…えー…

半笑いで騒ぎ出す山中。

山中 …追お。

下手へ走り去る山中。

玲衣 え、いやちょっとそれは…式どうするんですかー山中さーん…

追いかける玲衣。

少し間がある。

話しながら入ってくる七実。

七実と杏菜と稲田登場。

七実 それでしたら、新婦様、ヘアメイクは7時からとなりますので、それまでど
うぞここで。新郎様は8時到着でよろしいですかね。

杏菜 はい。

七実 お茶は…

杏菜 いや、大丈夫です。

七実 マネージャーさんは…
稲田 あ、私も。

少し間が空いて。朝の鳥の声。

七実 ……天気いいですね。

杏菜 随分と雲が多いみたいですけど。

七実 午後は晴れるみたいですよ。

間が空く。気まずい間ではない。

七実 ……今日の結婚式、成功させましょうね。

杏菜 ……勿論。

電話が鳴る七実。

七実 はいはい、なんでしょうか…じゃあ、すみません。メイクの方が来たら、お願いします。

上手にはける七実。

間が空く。スケジュール帳を開く稲田。

稲田 メイクが終わった後は、ドレスの着付け。そのあとに、写真撮影が…

杏菜 ありがとうございます。

稲田 うん。

杏菜 ありがとうございます、今まで。

Dave Barnes の Annie がかかる。

稲田 ……何を言ってるんだ…俺は今後もお前のマネージャーだ。

杏菜 ……野暮なやつ。

暗転していく舞台。

音楽が大きくなる。

明転したら、すぐにカーテンコール。

そのまま終演。